

## 武道と医療の歴史人類学 -活法研究の紹介-

### 摘要

江戸期の武術伝書に散見される「活法」という文字、伝書の多くが免許・印可の形式であり、技術について詳しく記されていない。後世解釈の余地が生じて「秘伝」とされる。

私の場合、柔術の「系譜」を辿って伝承系を探してきた。

「活法」については、医療的側面から眺めると、「武術の活かし技術」と解釈されるが、その頃の医術とすり合わせて考える必要があるようだ。私は、その頃の医療事情を「ほねつぎ」に絞り注視してきた。

私の考えでは、「活法」の具体的な解説が記された書物が登場するのは、幕末・明治期において、この頃、新たに「活法の虚像」が創られたのではないか。すなわち、明治近代において、「活法」は、伝統的医療技術に重ねられることで存え、西洋医学との対比を強調していく。

今回のプレゼンでは、戦闘技法に由来する医療術の歴史と医療文化の一部(柔道整復)を紹介します。